

愛隣館研修センターニュース 第71号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : airinday@sunny.ocn.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

高次脳機能障害とは何か？その取り組みの現状

「高次脳機能障害がい」という言葉を皆さんはどこかで聞いたことはありませんか？聞いたことはあるけれど、どのような障がいかわからない、という方も多いのではないのでしょうか。

そこで、今回は、京都で高次脳機能障害がい外来を行っている京都府立医科大学神経内科の武澤信夫医師（京都府リハビリテーション支援センター所長兼任）に、高次脳機能障害がいについて、その症状や取り組み等を書いて頂きました。

高次脳機能とは、言語や行為、知覚、認知、記憶、注意、判断、情動など大脳で営まれる様々な機能のことです。事故による頭部外傷や、脳血管障害により、脳が損傷を受け、記憶や注意・遂行機能・情動の障害や、失語、失認、失行といった症状が現れる場合があります。このように、後遺症として、記憶、注意、行動、感情、言語などに障害が残った状態が高次脳機能障害と呼ばれています。

厚生労働省は、2001年度から5年間にわたって高次脳機能障害支援モデル事業を実施してきました。その成果を踏まえて2005年度に成立した障害者自立支援法において、都道府県が行う地域生活支援事業の中に、「専門性の高い相談支援事業」の一つとして高次脳機能障害支援普及事業をあげています。京都府では、2007年度より京都府リハビリテーション支援センターを高次脳機能障害支援拠点として、相談窓口の開設、医療・福祉・行政関係者等の研修、地域での支援体制の整備などの取り組みを開始しています。

これらの障害について、高次脳機能障害支援普及事業の主な対象である記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害を中心に下記に症状の例を述べます。

【記憶障害】

物の置き場所を忘れていたり、新しい出来事や約束を覚えたり、それをずっと保持しておくことが難しくなります。そのために、何度も同じことを繰り返し質問したりするといった症状が見られることがあります。また、日時を間違えたり、場所がわからなくなり、目的地へ着くことができずに迷ってしまったりすることがあります。

【注意障害】

ぼんやりしていて、指示を間違えるなど不注意のミスが多くなります。また気が散り、疲れやすく、作業が長続きしないことがあります。また、多数の中から注意して必要なことを選ぶことが難しくなったり、同時に複数のことに注意を配ったりすることが困難なため、混乱が生じることがあります。

【遂行機能障害】

目的を持って計画し、段取りをつけて処理していくような一連の活動が難しくなります。その結果、一つ一つ人から指示されないと、自分一人では物事を目的に合わせて適切にやり遂げることができないことが生じます。また、物事の優先順位がつけられず、目標を設定する前に行動を始めてしまったり、作業の手順がわからなくなったりすることがあります。

【社会的行動障害】

自発性が低下して自分からは動こうとしなくなったり、周囲への関心や感情の動きが乏しくなったり、抑うつ的になることがあります。反対に、様々な状況に対処できなくなった場合に、感情的になり攻撃的な態度を示すことがあります。また、簡単に泣いたり、笑ったりと感情のコントロールが難しくなったり、我慢ができなかったり、こだわりが強くなるなどといった症状が見られることがあります。ほかに、他人にすぐ頼るようになる、子どもっぽくなるといった依存や退行を示すことがあります。これらの症状のために、周囲の人と円滑な対人関係を維持することが難しくなると考えられます。

京都府では、年間約200名の発症が推定され、6000名の高次脳機能障害者がいると考えられますが、実態は十分分かっていません。本年度から、京都府リハビリテーション支援センターが、高次脳機能障害支援拠点となり、相談事業、研修事業、地域ネットワークづくりを始めたところです。

この間、協力医療機関の公表、7月13日に医療関係者研修会（約140名）、11月20日に行政・福祉関係者研修会（約200名）の参加があり、関係者の関心は高いと思われま。しかし、本人とご家族は、大変、困難な状況にあると思いますので、医療リハビリテーション、生活訓練、社会参加、就学・就労支援、生活支援の取組が必要と思います。

京都府リハビリテーション支援センター
（高次脳機能障害がい支援拠点）TEL 075-221-2611
電話相談 火曜：午後1時～4時・金曜午前9時～12時
来所相談 金曜：午後1時～4時（予約制）

愛隣館全体研修会報告

野の百合保育園、空の鳥幼稚園、愛隣デイ、シサム、ゆうりん、支援センターあいりんの全スタッフが集まり、毎年、研修会を行っております。それぞれ異なる働きのある場であっても、愛隣館のスタッフとして同じ思いで子どもや利用者向き合えるように研修を重ねてまいりました。今回は「医療的ケア」と「キリスト教社会福祉」の両研修会を参加者のアンケートを中心に報告させていただきます。

医療的ケア研修会(7/13)

講師は出島直Dr(京都民医連太子道診療所小児科)

研修内容は、医療的ケアの歴史と、経管栄養法(胃ろう)、吸引(口腔内、気管内)、気管切開について(ビデオを見ながら)、導尿の補助について学びました。

基礎知識を再度確認することで、日頃の医療的ケアを見つめ直す良い機会になりました。全国的に依然として、医療的ケアが必要な為に福祉サービスなどが受けられないケースがあります。医療的ケアがあるからこそ健やかに過ごせているのに、このような差別的な対応を受けてしまう。「医療的ケアがあって良かった」と心から喜べる社会にしていきたいと強く感じた研修でもありました。(井桁)

参加者の感想

- …「もしも」の時のことを考え、どうしていくか職員間で共通認識しておくことが大事だと感じました。
- …清潔面の話で、自分を感染から守ることよりも、本人にバイキンを付けないために普段の生活から改めて見直し、気づいていこうと思います。
- …普段何気に保育生活をしている中で、安全面で注意する面を考え、やはり怖いと思う自分自身がいましたが、研修を受け少し気持ちが楽になりました。
- …本人のみならず、家族からの視点の話も聞け良かった。
- …4月から呼吸器を扱うことが多くなりました。安全で楽に過ごすためにその人にとって何が必要なのか？私たちがその人の特性や取り巻く環境をしっかりと理解することが、最低限必要なことだと改めて感じた。
- …改めて医療的ケアの歴史を振り返り、愛隣館で担う意義を再確認できました。
- …幼い頃、自分もチューブを付けていたので、その時間きたい内容でした。
- …愛隣館での医療的ケアを他の施設や事業所の方々に、紹介できるように学びを深めたいと思います。

キリスト教社会福祉全館研修(9/27)

今年のキリスト教社会福祉全館研修は、向島在住の在日朝鮮人2世、朴実さんにお話を伺いました。キリスト教や福祉という言葉はお話の中に直接的にはあまり出てきませんでしたが、「共に生きるとは…」ということ深く考えさせられる内容でした。朴さんは日本で生まれ、様々な差別を受けながら育っていく中で差別されることに慣らされてしまい、進学、就職の場面では抵抗する気力もなくなっていたそうです。でも結婚のために、日本国籍を取得されました。申請手続きはとても屈辱的だったけれど、取得することができました。けれども、子どもの誕生を機に民族名を取り戻すためには闘いが必要でした。1987年に「民族名を取り戻す裁判」にて、日本国籍を取得している方で初めて民族名を取り戻すことになりました。

朴さんの葛藤の歩みを目の当たりにして、身近な所に朴さんのような思いをしながら生きている人がまだまだ沢山いるんだろうと思いました。自分は国籍や肌の色、障がいの有無で人を差別していないと思っていただけ、知らなかったという事実が実は、差別している側の人間だったんだと気付かされました。朴さん、貴重なお話、ありがとうございました。(黛)

参加者の感想

- …「帰化」の意味を知って驚きました。日本がやってきた事、差別などを信じられないというか、驚きの連続でした。どうして皆で認め合うことができないのか？と、苛立ちも感じました。
- …差別が今も強く残っていることに驚きました。表面的には平和だけど、平和とは程遠いのだと思い知らされました。
- …身をもって在日の差別を受けてきた方の生の声を初めて聞き衝撃的だった。感想も出てこない、消化するのに時間がかかる。
- …自分が何も知らない話だったが、目から涙が出た。
- …歴史を正しく理解することが大切であり、今の日本には欠けているのではないかと思う。在日の方の置かれている現状を知らずに過ごすことはある意味簡単である。しかし日本がやったことによって今も差別に苦しんでいる人たちがいることを忘れてはいけないと感じた。今後、自分なりに勉強していこうと思う。

■ 2007年7-12月の行事報告 ■

8/12(日)-13(土)に行われた、愛隣館研修センターの行事である「CS(向島伝道所)キャンプ」に参加した。

YMCAサバエキャンプ場にて行われ、総勢46名の参加があった。「湖水浴・飯ごう炊さん・キャンプファイヤー・花火・掃除・配膳・片付け」という様々な体験を通して、障がいのある人ない人が年齢に関わらず、とにかくみんなが笑顔で、のびのびと過ごしていた。とてもいい時間だった。



↑ジャガイモの皮むきまあす

←薪も割りますよ!

「みんなが主演」のテーマの下、「共に生きる」ことの実体験ができる場がそこにあった。それぞれに他者理解の機会が与えられていた。違いが多くあるからこそ楽しい。他者を理解していくことで、自己(自分自身の事)をより深く理解できる。こういう場所が当たり前にある世の中を目指したい。(森拓平)

- 7/8 医ケアネット大阪
- 7/13 医ケア全館研修 出島直氏
- 7/17 ひやりハット学習会
- 7/22 SIEA 開校式(第29回)研修生がインド・タイへ
- 7/27 傾聴学習会

8/12-13 向島伝道所 CS キャンプ

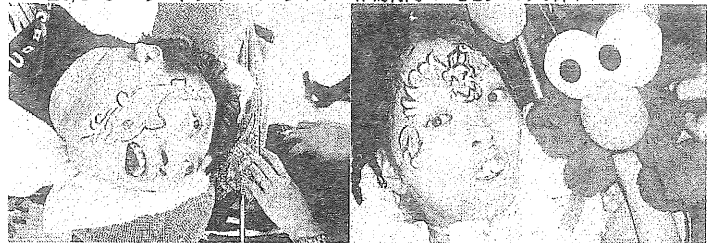
8/15-16 『遊隣』キャンプ in 琵琶湖リトリトウ

9/10.11.12.14BBQ in 愛隣館

9/15-16 SIEA 猪飼野(生野)セミナー

9/27 愛隣館職員研修会

10/5-6 デイケア・シサムー泊旅行 USJ & 天保山



↑ ペインティングされている間の心地よさといったら...?? ↑

10/24-25 デイサービスー泊旅行

有馬温泉&六甲山&ハーバーランド



カラオケはもちろん"X!" ↑

♪神戸~♪ ↓

11/13 愛隣館全館避難訓練

11/18 向島にっこりフェスティバル! 皆様のご協力に感謝!

詩人 柏木正行さん (1945-2006) の

魂に触れる ④

地球

俺たちは
この地球で生きてるんだ

男も女も

老人も子供も

肌の白い人間も

黒い人間も

東洋人も

アラビア人も

障害を持つ人間も

持たない人間も

みんな

この地球に養われ

地球でしか生きられないんだ

それなのに

どうして仲良くできないんだい

人間と

人間とが

殺し合わなければならないんだい

たった一回限りの人生を

どうして大事にしないんだい

詩集 路 より

柏木正行著 明石書店

アジア国際夏期学校 (SIEA) タイセミナーご案内

期 間 2007年3月4日(火)~3月13日(木) (※3/13は早朝関西空港着)

参加費 14万円程度 (往復航空運賃、滞在費、現地コーディネーター・通訳者謝礼、カバ等)

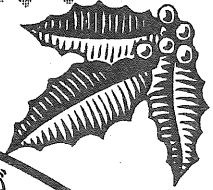
少数山岳民族カレンの村やバーンサバイ(チェマイ)・SEPOM(チェライ)等訪問予定

少数山岳民族の方々との出会いや、現地でHIV/AIDSの課題に取り組むNGOの方々との

交流を通してアジアの中の日本を見つめなおし、学びと気づきの機会になればと願っております。

075-621-3849 もしくは sica@abelia.ocn.ne.jp までお問い合わせ下さい(担当: 辻)

クリスマス献金のお願い



当センターが、この向島の地に誕生してから、早くも28年が経過しようとしています。今日まで、皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けることが出来ましたこと、心より感謝します。

稀代の悪法「障害者自立支援法」が昨年4月より施行されています。これまでの障がい者福祉の流れに逆行する「障害者自立支援法」により、「障がい」を持つ人たちの地域生活が脅かされる現実に直面しております。支援を必要としている人が、支援を受けることによって、定率の負担を強いられ、その徴収を各事業所が行うことになり、「利用者」と「事業者」がややもすれば対峙するような関係になりかねません。

今の政府が推し進める「骨太の改革＝社会保障費の削減」が、障がい者とその家族、またそこに関わる人々を苦しめています。私たちは、制度がどのように変化しようとも、障がいを持つ人のみならず、すべての人が大事にされる社会を目指して歩んでいきたいと願っております。

これまでも皆様方には多額の献金をして頂いているにもかかわらず、新たなお願いをさせて頂くのは、誠に恐縮ですが、今年度も「愛隣館研修センター・クリスマス献金」にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げます。次第でございます。

クリスマス献金、目標金額

3,000,000 円 ※口数、金額ともに任意です。

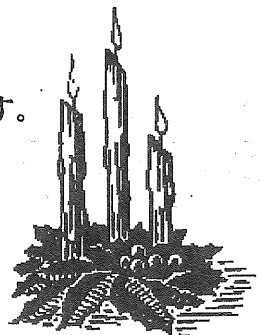
送金方法

※ 以下の口座をご利用ください。

郵便振替

01020-5-39321

口座名：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



☆お知らせ☆
▽愛隣館研修センターは、十二月二十八日～一月三日まで冬期休館日とさせていただきます。

★編集後記★

▽「1月号・冬号」完成！
あつという間に年末です。常に進化し続ける社会。常に進み続ける愛隣館。研修センターも常に新鮮な内容となっております。◇題字を除いて、◇皆様からの感想に励まされております。◇今後ともお聞かせ下さい。(セ)

★所長より★

▽稀代の悪法「障害者自立支援法」が施行後一年あまりで見直しが検討されています。◇障がいのある人やその家族、関係者の叫びが届いたともいえません。◇しかし、大きな要因の一つには、参議院選挙における与野党逆転があったのではないのでしょうか。◇政府はこれまでの数にたよって強引に押し切っていくことは世論を敵にまわすことによろやと気づいたのです。◇しかし、社会保障費削減の方向性は変わっておりません。◇また、国防費の名目で、湯水のごとくお金を費やしてきていることへの反省もありません。◇仮想敵国と想定している国々と仲良くすること、テロが起らないような貧困を助長するような社会構造を改革すること。◇そこにお金と労力を費やすことで、真の意味での正義と平和が訪れるのではないのでしょうか。(ハ)